



学校愛を引き継ぐ

学校長 村越 新

3月14日に引き継ぎ式を行いました。卒業する六年生代表と、在校生の五年生代表が、互いにメッセージを伝えました。その全文を紹介させていただきます。

六年生代表の言葉

三月二十五日。満開の桜に出迎えられ、私たち六年生は、扇小学校を卒業します。

六年生として一年間、下級生の見本となる行動を意識して過ごしました。私がどんな学年でも、**最高学年**という存在はとても大きく、かっこいいものでした。自分たちも成長したらこんな姿になりたいと感じ、その**背中を追いかけ**ました。そして最高学年になり、自分たちが**憧れていた姿**を達成できるよう、この一年間がんばってきました。

私が六年間生活して気づいた扇小の良いところは、**友達ととても仲良く**できることです。休み時間、他の教室を見て見ると、みんな楽しそうに過ごしています。友達と仲良くすることは、自然とできることではありません。相手のことを**思いや**って言葉をかけたり、**助け**たりすることが大切です。それが、みんなできているから、友達と仲良く過ごせるのだと思います。

私たちが卒業するにあたって、皆さんにこれからも残して行ってほしいことがあります。それは、**無言清掃**です。来年、扇小は**五十歳**という節目を迎えます。五十歳を盛大に祝うと同時に、学校をきれいにし、これから次世代に続いていけるようにしてほしいです。なので、日々の無言清掃を真剣に取り組んで行って下さい。

四年生の皆さん、四月からは五十代目サブリーダーになりますね。五年生からは、行事や実行委員としての活動などが増えてきます。**六年生と一緒に**、扇小を支えて下さい。

五年生の皆さん、四月からは五十代リーダーになりますね。六年生は、扇小の代表として活動することが増えてきます。**下級生の見本**となる行動をし、扇小を引っ張って行って下さい。

来年、扇小は五十歳を迎えます。これからの扇小がより良い学校になるためには、**一人一人が意識して行動**することが大切です。扇小を、楽しく勉強できる学校にしていくためには、リーダー、サブリーダーになる皆さんの力が必要です。卒業しても、私たちが**ずっと誇れる扇小学校**であることを期待しています。これからの扇小学校をよろしく願います。



五年生代表の言葉

私たちにとって六年生は、頼りになる存在です。そのことを強く感じたのは運動会の練習です。フラッグの練習で、裸足でダッシュする時も、声を出すときも、六年生はいつも**全力**でした。六年生が**真剣**にやる姿を見て、私たちも集中してがんばるぞという気持ちになりました。六年生が作ってくれた**真剣な雰囲気**があったから、フラッグは大成功したのだと思います。

そんな素敵な六年生のように私たちがなるために、六年生の皆さんがなんでこんなにすごいのか、頼もしいのかを考えました。クラブや委員会で、六年生同士が**協力**する姿。ぴったりとそろった**きれいな歌声**。それらを作り出したのは、六年生の**団結力**、**チームワーク**があったからだ気づきました。

そして、皆さんから学んだ**チームワーク**を扇小全体に広げたら、みんなで**助け合い**のできる、すばらしい学校になると思います。そんな助け合いのできる学校を目指して、まずは、私たちが六年生のように、お互いを**思いやり**、**協力**していきます。

私たちがそう思っていたように、次の五年生や下級生に「扇小の最高学年はすごい」「六年生のように、自分たちもがんばろう」と言われるようになります。

今まで見てきた六年生の姿に追いつくために努力するので、扇小学校は私たちに任せて下さい。

学校へのありがとうに

3月15日、六年生が「お世話になった校舎をきれいにする」活動をしてくれました。六年間お世話になった校舎に感謝して、校舎内を清掃すると共に、中学校生活でも行っている「無言清掃」への意識をさらに高めること

をめあてに、取り組んでくれました。「下級生が気付かないうちに校舎内がピカピカに！」を合言葉に、**真剣**に取り組んでくれました。

30分間、この時の六年生には、話しかけずらいオーラを感じました。階段、トイレ、廊下（壁も）、特別教室などをピカピカにしてくれました。

